

地形・地質

雲仙火山は島原半島の中央部にあり，周辺になだらかな火山山麓が広がり，半島の南部には標高 200～300m の丘陵地帯（口之津丘陵）があります。半島中央部を東西方向に走る断層地形があり，落ち込んだ部分を雲仙地溝帯と呼んでいます。

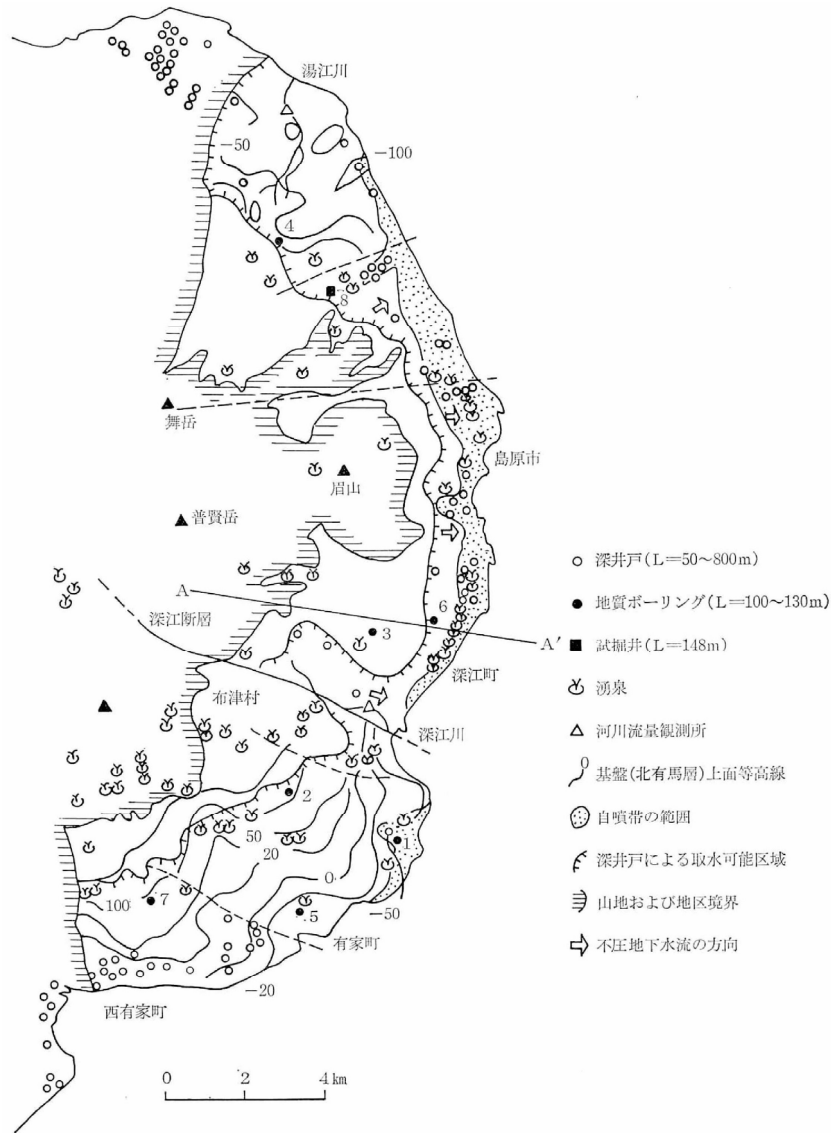
雲仙山麓水文地質層序表

時代	柱状図	名称	地層名	火山活動	地形面	地下水
完 新 世	F ₁	表土(10～20cm)				
	F ₂	灰褐色火山灰(40cm土)	普賢	普賢期 火山活動	新扇状地	● ↑
	F ₃	黒色火山灰層(40cm)			旧扇状地	
	F ₄	淡褐色火山灰層(40cm)	黒色火山灰層	(野岳, 圓見岳, 普賢岳)		
F ₅	暗褐色粘土質火山灰(50cm)					
後 期		褐色ローム(60cm)	三会ローム層	矢岳?	低位段丘面	
		火山砂層(30cm)			10～20m	
		赤褐色ローム(100cm)		九千部期末 寄生火山活動	中位段丘 (下位)面	
		オレンジ色浮石層(150cm±)	大三東ローム層	(舞岳, 矢岳)	20～30m	
更 新 世		浮石質凝灰角礫岩				
		浮石流(粘土質)	八女粘土層			
		赤色土 凝灰角礫岩質砂層流 (くさり礫) (3～10m)	吾妻層	九千部期火山 活動 (九千部岳, 高岩山)	中位段丘 (上位)面	● ↑
		一部水成層				
中 期		茶褐色泥質ローム層	瑞穂ローム層	高岳期 火山活動 (高岳, 箱笠川)	高位段丘面	● ↑
		上部は角礫凝灰岩質 火山碎屑岩層	竜石層	雲仙基底 凝灰角礫岩		
		中, 下部は凝灰質 シルト, 砂, 礫の互層 (50～200m)				
前 期		シルト, 砂礫の互層 玄武岩, 安山岩, 軽石流を はさむ	口之津層群	南島原安山 岩類 玄武岩		● ↑
		下部は砂礫層				● ↑

● ↑ 自由地下水 ● ↑ 被圧地下水

地下水

島原市街地や深江扇状地末端の湧水群は、扇状地砂礫層や雲仙火山噴出物、その崩壊物中から湧出しています。口之津丘陵では口之津層群が被圧帯水層になり、雲仙火山噴出物中の地下水は、火山山麓を形成する竜石層やその相当層に賦存しています。



雲仙火山東麓の水文地質図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html>（日本地下水学会）